

## 東日本大震災の復興支援への取組み状況の報告

報告日：平成 23 年 9 月 30 日（第 4 報）

支部・部会・実行委員会・登録グループ名

原子力・放射線部会

責任者名 / 報告者名

桑江良明 / 同

取組みの状況（報告済み～9月末までの検討状況、予定等含む）2,000 字以内

### 1. 中間報告～9月末までの取組みについて

3月11日の東北地方太平洋沖地震に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に関連して、部会員の大多数がその所属組織において、冷却安定化、放射性物質拡散防止、避難住民支援、除染等の作業に直接間接に取り組んでいる。

部会としては、部会員がそれぞれの立場で職責を全うすることが最重要であると認識している。そのうえで、所属組織の垣根を越えて部会として取り組むべき課題を抽出し実施している。

#### (1) 福島避難住民の一時帰宅支援業務

国の原子力災害現地対策本部の指揮の下実施されている「一時帰宅支援プロジェクト」に、日本原子力研究開発機構を通じて参加要請があり、第1陣として7月11日までに部会員10名が参加した（既報）のに続き、7/21および8/4に追加募集を行い、第2陣として9月9日までにさらに10名が参加した。本プロジェクトへの参加者はリピータを含み延べ20名に達した。今後も部会として継続的に協力していく。

#### (2) 福島コールセンター支援業務への参加

一般市民から寄せられる原子力発電所事故や放射線に関する電話質問に答える福島コールセンター（国の委託業務）に、原子力・放射線関係の有識者として部会員2名が参加している。

#### (3) 「事故解説チーム」の発足

震災発生以降、当部会に対して技術士会内外から「原子力」、「放射線」に関する説明会・講演会の講師派遣等の依頼が数多くある。部会としてこれらに適切に対応する必要があるとの認識のもと、部会員10名からなる専門チーム「事故解説チーム」を発足し検討を開始した。年内を目処に部会としての標準的な説明資料を作成し、その後の情報を反映しつつ適宜追加修正を実施していく予定。

#### (4) 「富岡町復興ビジョン策定委員会」への参画

全町が避難対象となっている福島県富岡町の標記委員会に防災支援委員会とともに「オブザーバー」として部会員4名が参画。

同委員会は、町が事務局となり、町民26名の委員で構成され、町の復興ビジョン策定を目的に発足したものである。原子力・放射線部会の役割は、放射線・放射性物質に対する事実誤認が原因で議論が誤った方向に向かわないように客観的なアドバイスをすること。

#### (5) 「第3回技術士の集い」開催

9月21日、原子力学会2011年秋の大会（北九州）において「第3回技術士の集い」を開催し技術士13名を含む21名の参加を得た。この中で、福島事故に対して「技術士は何をし、何が

出来なかったか、これから何をすべきか」をテーマに意見交換した（意見交換結果は部会 ML で全部会員に周知予定）。

## 2. 今後の支部・部会としての取組みについて

\* シンポジウム、被災自治体との意見交換、復旧・復興支援調査での活動予定等を記載ください。

### (1) 社会人向け公開講座「知の市場」への出講準備

化学工業会より、次年度の社会人向け公開講座「知の市場」の中で、「原子力・放射線の基礎知識」に関する出講依頼があり、部会員 2 名が対応準備中。

### (2) 墨田区防災訓練参加（中止）準備経験の反映

「測定実演つき放射線説明」については実現一歩手前まで準備が進んだが、残念ながら先方の意向で中止となった。しかし、機材の調達等準備の過程で得られた知見は多く、今後この準備経験を他の類似の活動に活かしていくことが期待される。

### (3) 原子力学会との連携

前述の「第 3 回技術士の集い」において、組織に属する技術士が震災復興活動等に従事しやすい環境を整えるため、原子力学会から賛助会員（原子力関係組織）に対し協力・支援を要請してはどうかとの提案があり、まずは、学会の原子力教育・研究小委員会委員長と技術士会原子力・放射線部会長の連名で学会長に要望書を提出することとなった。

また、9月21日、原子力学会 原子力教育・研究小委員会にて、当部会の福島対応を含めた諸活動について報告した。

### (4) 技術士会主催、公開シンポジウム「第 2 回東日本大震災復興支援報告会」への参加

標記報告会にて、これまでの部会としての活動と今後の取組みについて報告予定。

### (5) 【放射線 Q & A リンク集】部会 HP への掲載準備（継続）

一般市民向けの放射線に関する情報提供の第 2 弾として「放射線 Q & A リンク集」の制作にかかっている。

### (6) 部会員の活動記録（継続）

現在の喫緊の作業に従事している部会員はその職責を全うすることを最優先するとともに、後にそれを集約できるように、出来る限りその活動記録を残すようお願いしている。

以上